

**全国都市農業フェスティバル
開催計画**

令和5年（2023年）1月

全国都市農業フェスティバル実行委員会・練馬区

【 目 次 】

1	開催の背景	1 ページ
2	開催目的	2 ページ
3	開催概要	3 ページ
(1)	開催日時・会場	3 ページ
(2)	全体スケジュール	3 ページ
(3)	被招聘都市・開催都市	5 ページ
(4)	区民参加等の推進	11 ページ
4	実施体制	12 ページ

1 開催の背景

平成27年4月に都市農業振興基本法が制定され、平成28年には、同法に基づく都市農業振興基本計画が策定された。同計画において、都市農地は、「宅地化すべきもの」から、「都市にあるべきもの」と位置付けられ、大きな政策転換が図られた。都市農業・農地は、農産物の供給や、防災、環境面などに関する多様な機能を有することはもちろんのこと、今後の都市における市民生活を更に豊かにする可能性を持っていることが示された。

平成29年に生産緑地法が改正され、生産緑地の買取りの申出期間を10年延長できる「特定生産緑地制度」が創設された。また、平成30年に「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」が制定され、生産緑地の貸借により、都市農地の有効活用が図られる仕組みが整った。

練馬区は、東京23区にある農地の約4割を有し、区内では、市民生活と融合した“生きた農業”が営まれている。都市に農地が存在し、農業が産業として営まれていることは世界的にも稀有であり、こうした都市農業の魅力と可能性を世界に発信するため、令和元年に「世界都市農業サミット」を開催した。サミットでは、ニューヨークやロンドンなど海外参加5都市と都市農業の意義と可能性を確認し、参加者の総意として「サミット宣言」を発表した。日本全国からも、都市農業振興に取り組む自治体関係者や農業関係者等が多く集まり盛況を博した。

この間、全国の都市農地を有する自治体では、特定生産緑地や生産緑地の貸借などの制度を活用した取り組みを進めているが、都市農業を取り巻く課題は、全国の自治体で共通する部分が多い。全国の自治体同士がこれまで培った経験や知見等を共有し、新たな取り組みへと深化させることで、全国の都市農業を更に盛り上げ、都市農業・農地の意義や価値の向上を目指すことが求められる。

そこで、練馬区は、都市農業の魅力を広く発信し、更なる都市農業振興を図るため、都内および三大都市圏で、都市農業に積極的に取り組む自治体や農業者等を招聘し、令和5年11月に、「全国都市農業フェスティバル」を開催する。

2 開催目的

全国都市農業フェスティバルは、以下の3点を目的として開催する。

(1) 都市農業の魅力を発信し、都市農業への理解促進や更なる振興を図る。

都市農業の魅力を体感できる機会を提供することで、都市農業への理解を促進し、更なる振興につなげる。

(2) 農業者の営農意欲の向上や、都市農業に対する誇りの醸成を図る。

全国の都市農業者の取組に着目し、その意義や魅力を共有することで、営農意欲の向上や都市農業に対する誇りの醸成につなげる。

(3) 全国の自治体・農業者・農業協同組合同士が、知見や経験等を共有し相互に学ぶことで、都市農業の発展に向けた新たな取組につなげる。

都市農業振興に積極的に取り組む全国の自治体・農業者・農業協同組合が、直接集い参加することにより、自治体間を超えた連携・協力関係を構築する契機とし、新たな取組につなげる。

3 開催概要

(1) 開催日・会場

令和5年11月19日(日)
東京都立光が丘公園、練馬区立光が丘体育館 他

(2) 全体スケジュール

11月18日(土)は、被招聘者・農業関係者による区内農地等の視察のほか、都市農業の課題や取組に関する意見交換を実施する。

11月19日(日)は、フェスティバル本番として、「食べる・体験」をテーマに、農産物を活用した飲食物等の販売やワークショップ等、「買う」をテーマに、区内および全国の農産物等の販売、「話す・学ぶ」をテーマに、区内農業者と被招聘農業者による、都市農業の魅力を発信する区民向け講演を実施する。

	11/18 (土) (被招聘者等のみ)	11/19 (日) (フェスティバル本番)		
午前	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">練馬区内 農地等視察</div>	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #e6f2ff; margin-bottom: 5px;"> 食べる・体験 </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 農産物を活用した飲食物等の販売 都市農業の魅力を体験できるワークショップ等 </div>	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #e6ffe6; margin-bottom: 5px;"> 買う </div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 区内・全国の農産物等の販売 </div>	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #ffe6e6; margin-bottom: 5px;"> 話す・学ぶ </div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 区民向け講演 ① </div>
午後		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">意見交換</div>		<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 区民向け講演 ② </div>

令和5年

11月18日(土)

時間	事業内容	参加者
午前	練馬区内農地等視察 会場:区内農地等	被招聘者 農業関係者
午後	意見交換 会場:ホテルカデンツァ東京	

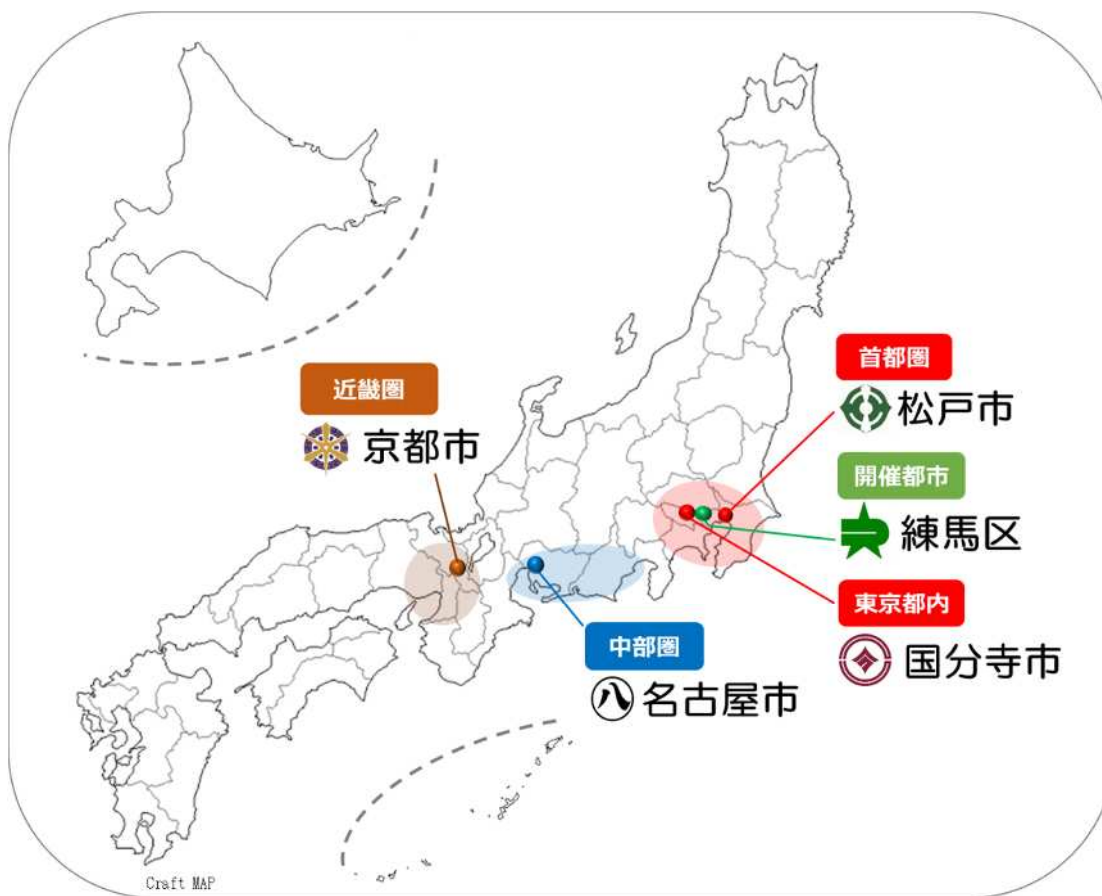
11月19日(日)

時間	事業内容	参加者
午前	話す・学ぶイベント(区民向け講演) 会場:光が丘体育館	一般来場者 被招聘者
午後	話す・学ぶイベント(区民向け講演) 会場:光が丘体育館	
終日	食べる・体験イベント (飲食物等の販売・ワークショップ) 会場:光が丘公園	
	買うイベント (区内・全国の農産物等の販売) 会場:光が丘公園	

(3) 被招聘都市・開催都市

全国都市農業フェスティバルは、都市農業に積極的に取り組む自治体のうち、東京都内および三大都市圏（首都圏・中部圏・近畿圏）から1都市ずつ、計4都市を招聘する。

意見交換および区民向け講演を効果的に行うため、被招聘都市から、行政担当者、農業者、農業協同組合職員のうち3～4人を招聘する。



基本情報¹

面積：11.46 km ²	人口：128,401 人
農地面積：134ha	農家戸数：176 戸
市街化区域内農地面積：134ha	農業従事者数：459 人
生産緑地地区面積：116ha	JA：東京むさし農業協同組合

都市農業の概要・特徴

- 市内全域が市街化区域に指定されており、農地の大部分が生産緑地に指定されている。
- 販売農家に対する主業農家の割合が高く、生業としての農業が営まれている。
- トマトの生産が盛んであり、農業産出額の1割強を占めているほか、キャベツ、ダイコン、ハクサイ等の野菜のほか、市の特産品である東京ウドの生産が盛んで、果樹ではブルーベリーの生産が盛んである。
- 農業者は直売所への出荷を中心とした少量多品目生産を重視しており、市内各所に有人・無人の野菜直売所を設け、地産地消が進んでいる。
- 地場産農畜産物に「こくベジ」の愛称をつけ、こくベジとこくベジを使用したオリジナルメニューを提供する飲食店をPRすることで市外から人を呼び込み市内消費を促進する「こくベジプロジェクト」が展開されている。

¹ 面積、人口は、令和4年12月1日現在。
農地面積、市街化区域内農地面積、生産緑地地区面積は、令和4年1月「国分寺市まちづくり計画課・課税課データ」、農家戸数、農業従事者数は「2020年農林業センサス」による。

首都圏 松戸市（千葉県）

基本情報²

面積：61.38 km ²	人口：496,954 人
農地面積：677ha	農家戸数：662 戸
市街化区域内農地面積：200ha	農業従事者数：1,304 人
生産緑地地区面積：125ha	JA：とうかつ中央農業協同組合

都市農業の概要・特徴

- 畑地の割合が高く、農業産出額の大部分が野菜となっている。
- ネギ、エダマメ、ハウレンソウ、キャベツ、カブ、ダイコン、トマト、ナシ、イチゴ等が生産されており、市街化区域内農地では、ナシやエダマメ等が主に栽培されている。
- 「矢切ねぎ」、「あじさいねぎ」、「まつどの梨」、「松戸えだまめ」等のブランド力のある農産物が生産されており、松戸産農産物ブランドシンボルマーク「みのりちゃん」や、「松戸えだまめ」推奨マークを用いて、農産物のブランド化に取り組んでいる。
- ハウレンソウなどの野菜の生育について、種まきから収穫まで、農家の指導を受けながら農作業体験ができる「体験型オーナー農園」を展開し、農に触れる機会を提供している。
- 令和元年に、「ねぎ」の魅力を全国に発信する「全国ねぎサミット 2019 in まつど」を開催した。

² 面積、人口は、令和4年12月1日現在。
農地面積、市街化区域内農地面積、生産緑地地区面積、農家戸数、農業従事者数は、平成31年3月「松戸市都市農業振興計画」による。

中部圏 名古屋市（愛知県）

基本情報³

面積：326.5 km ²	人口：2,325,946 人
農地面積：1,030ha	農家戸数：515 戸
市街化区域内農地面積：558ha	農業従事者数：1,232 人
生産緑地地区面積：224ha	
JA：なごや農業協同組合、緑信用農業協同組合、天白信用農業協同組合	

都市農業の概要・特徴

- 市域の大半を宅地や商業地帯が占めており、大消費地という立地特性を活かした農業が営まれている。
- 市内全体では米の生産量が多いが、トマト、タマネギ、ブロッコリー、ブドウやウメなどが生産されている。
- 全国でも有数のミツバの産地となっているほか、水耕ネギの「なごやっこ葱」等の水耕栽培が行われている。
- 他の大都市と比較すると、市街化区域内農地における生産緑地以外の農地の割合が高くなっている。
- 直売所や朝市・青空市、スーパーマーケットや飲食店を巡るスタンプラリーを開催したり、JA が移動販売車で、名古屋市内産野菜「なごやさい」を販売するなど、地産地消に力を入れている。

³ 面積、人口は、令和4年12月1日現在。
農地面積、市街化区域内農地面積は、令和4年1月「固定資産関係資料」、生産緑地地区面積は、令和4年12月2日付け告示、農家戸数、農業従事者数は「2020農林業センサス」による。

近畿圏 京都市（京都府）

基本情報⁴

面積：827.8 km ²	人口：1,448,287 人
農地面積：2,390ha	農家戸数：2,800 戸
市街化区域内農地面積：611ha	農業従事者数：3,638 人
生産緑地地区面積：509ha	
JA：京都市農業協同組合、京都中央農業協同組合、京都農業協同組合	

都市農業の概要・特徴

- 令和3年3月に京都市農林行政基本方針を策定し、2050年二酸化炭素排出量正味ゼロの実現、SDGsの実現、持続可能なまちづくりに貢献する「ひとと農地・森林をいかした持続可能な『新しい農林業』」を目指している。
- 市域面積の77%が農地・森林となっており、京都ならではの山紫水明の美しい景観を支えている。
- 消費地に隣接している特徴を活かし、独自の販売ルートで市民に野菜を直接販売する「直売」や「振売り」等により、新鮮な農産物を市民に届けている。
- 伝統野菜（賀茂なす、みず菜、九条ねぎ等）や新京野菜（京都市が京都大学や京都先端科学大学、生産者と連携して開発・導入を進めている新品種の野菜：京ラフラン、京の黄真珠、京北子宝いも等）の販売促進に力を入れている。
- 地産地消を推進するため、市内生産者や直売所の情報をインターネットで発信するとともに、市民が地域の農産物に親しみ、農業を身近に感じていただける農業体験の機会の提供などを行っている。

4 面積、人口は、令和4年12月1日現在。
農地面積は、令和3年7月「令和3年面積調査」、市街化区域内農地面積は、令和4年1月「令和元年度京都市農林統計」、生産緑地面積は、令和4年11月「第77回京都市都市計画審議会議案書」、農家戸数及び農業従事者数は「2020年農林業センサス」による。

開催都市 練馬区(東京都)

基本情報⁵

面積：48.08 km ²	人口：739,193 人
農地面積：184ha	農家戸数：415 戸
市街化区域内農地面積：184ha	農業従事者数：927 人
生産緑地地区面積：157ha	JA：東京あおば農業協同組合

都市農業の概要・特徴

- 東京 23 区の農地の約 4 割が練馬区に残り、大都市東京の都心近くに立地しながら市民生活と融合した生きた農業が営まれている。
- 野菜は都内最大の生産量を誇るキャベツをはじめ、ブロッコリー、ダイコン、エダマメ、果樹はブルーベリー、カキ、ミカン、花きはサツキ、シクラメン等が主に栽培されている。
- 区内には約 270 か所の庭先直売所があるほか、区が主催する「ねりマルシェ」や農業者団体が行うマルシェで新鮮な農産物を購入できる。
- 練馬区発祥である、農業者が開設し、耕作の指導のもと種まきから収穫まで一連の農作業を体験できる「農業体験農園」は、農園数および区画数共に全国最多である。
- 年間を通して、果樹の摘み取りができる観光農園（果樹あるファーム）が多く営まれている。
- 江戸東京野菜の 1 つで、江戸の食文化の象徴でもある練馬大根を守り継いでいく取組を実施。その一環として、毎年 12 月に「練馬大根引っこ抜き競技大会」を開催し、収穫した練馬大根は翌日以降、全区立小中学校の給食で提供される。
- 令和元年度には、都市農業の魅力を世界に発信することを目的に、「世界都市農業サミット」を開催した。
- 市街化区域内農地を持つ東京都内 38 自治体が会員となる都市農地保全推進自治体協議会の会長区として、国への農地制度等の改正を要望。

⁵ 面積、人口は、令和 4 年 12 月 1 日現在。
農地面積、市街化区域内農地面積、生産緑地地区面積、農家戸数、農業従事者数は、令和 3 年 8 月「練馬区農業委員会農業経営実態調査」による。

(4) 区民参加等の推進

広く区民や団体等と連携して機運醸成等に取り組み、全国都市農業フェスティバルを開催する。

区民等の参加

フェスティバル開催に向けた機運醸成を目的に、区民等が都市農業の魅力に触れることができる事業を企画し、実施する。また、フェスティバル当日には、都市農業の魅力を体感できるイベントを様々な切り口により実施する。

農業者・農業関係団体との連携

都市農業に積極的に取り組む農業者や農業関係団体と連携して、フェスティバル開催に向けた機運醸成や事業を企画し、実施する。

飲食店・商店街等との連携

各店舗がフェスティバル開催に向けた機運醸成を目的に、地場産農産物を活用したメニュー・商品の魅力や、フェスティバル開催をPRする。また、フェスティバル当日に「食べる・買う」をテーマにしたイベント出店や商品販売等を行う。

教育機関・福祉団体等との連携

学校や図書館等と連携し、フェスティバル開催に向けた機運醸成に取り組む。また、農と関わりがある障害者施設等と連携し、機運醸成に取り組むほか、フェスティバル当日に「買う」をテーマにしたイベントにおいて、農福連携商品の販売等を実施する。

企業・経済団体との連携

フェスティバルに協力いただける企業や経済団体と連携し、開催に向けた機運醸成等に取り組む。

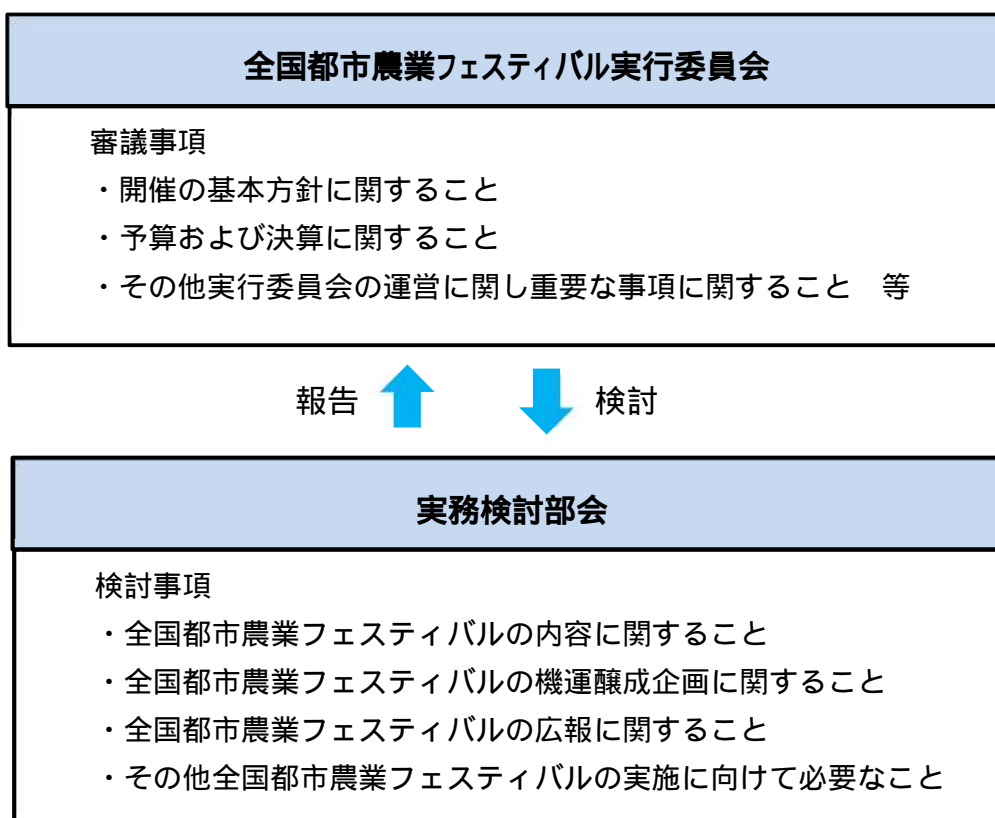
世界都市農業サミット参加海外都市との連携

世界都市農業サミットで培った、ニューヨーク、ロンドン、ジャカルタ、ソウル、トロントとのネットワークを活かし、フェスティバル開催に向けた機運醸成に取り組む。

4 実施体制

全国都市農業フェスティバルの開催にあたり、関係機関・団体、行政等が幅広く参加し、緊密に連携しながら取り組むため、「全国都市農業フェスティバル実行委員会」を令和4年10月18日に設立した。

構成は、農業関係団体、区内経済団体、国、東京都および練馬区とする。



全国都市農業フェスティバル実行委員会 名簿

(順不同・敬称略・令和5年1月現在)

役職	氏名	所属団体等	所属団体役職等
会長	前川 耀男	練馬区	区長
副会長	小西 将雄	練馬区	副区長
委員	城田 恆良	東京都農業協同組合中央会	代表理事会長
	久保 秀一	東京あおば農業協同組合	代表理事組合長
	西貝 孝之	練馬区農業委員会	会長
	井口 薫	練馬産業連合会	会長
	石塚 康夫	東京商工会議所 練馬支部	会長
	加藤 政春	練馬区町会連合会	会長
	湯澤 将憲	国土交通省	都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室長
	高橋 正智	農林水産省	農村振興局 農村政策部 農村計画課 都市農業室長
	山田 則人	東京都	産業労働局 農林水産部長
監事	小川 善昭	練馬区商店街連合会	会長
	後藤 俊一	練馬区	会計管理室長

全国都市農業フェスティバル実行委員会 実務検討部会 名簿

(順不同・敬称略・令和5年1月現在)

役職	氏名	所属団体等	所属団体役職等
部会長	西貝 伸生	東京あおば農業協同組合	練馬地区青壮年部副部長
副部会長	田中 秀一	東京あおば農業協同組合	石神井地区青壮年部
	高橋 洋平	東京あおば農業協同組合	大泉地区青壮年部
部会員	洒井 雅博	JA 東京青壮年組織協議会	委員長
	中川 大介	東京あおば農業協同組合	地域振興部農業振興課長
	田中 静雄	練馬産業連合会	事務局長
	安藤 薫	東京商工会議所 練馬支部	事務局長
	小杉 正明	練馬区商店街連合会	事務局長
	吉田 法仁	一般社団法人練馬区産業振興公社	ねりま観光センター センター長